

令和5年度 第1回 地域包括ケア推進会議

令和5年8月1日(火) 18:50～

次 第

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 事務局紹介
- 4 副会長選出
- 5 会長・副会長あいさつ
- 6 議 事



- (1) 地域包括ケアシステムの構築に向けた各地区の取組みについて
 - (2) (医療と介護連携促進部会)在宅医療・多職種連携について
 - (3) (高齢者生活安全部会)認知症サポーターの活用について
 - (4) (健康と生きがいづくり部会)いわき地域リハビリテーション広域支援センター等の連携について
 - (5) 情報共有
 - (6) その他
- 5 閉 会

地域包括ケアシステム構築に向けた各地区の取組み

平 地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【地区の背景】

浜通り地方最大の商業地区を形成している地区であり、いわき駅近郊では居住用マンションも点在している。

【抱える課題】

○ 都市部から中山間地域まで地域性が多様なため、地域が抱える問題も多岐に渡り、単純に集約できない面はあるが、「地域コミュニティの希薄化への対応」「既存の団体・活動（自治会、老人クラブ等）の活性化」「世代間交流の必要性」など、

地域住民の結びつきが低下傾向。

○ 高齢化の進む地域において、バス路線の廃止や減便、心身機能の低下に伴う自動車運転免許証の返納により、移動手段が絶たれ外出に困っている高齢者の実態が見られる。

住み慣れた地域での生活を続けていくため、移動手段の仕組み作りが必要である。

その
ため

2.これまでの主な取り組み

- ・ 高齢者等の移動手段に関するアンケート調査の実施

⇒ 日ごろの外出先や目的地までの移動手段、外出に関する困りごと等の意見を集約し、平地区における実態と課題を把握

- ・ 講演会の開催（島田眼科医院）

⇒ 「街づくりのための通院補助車輛その後」をテーマに地域課題解決の具体的な取り組み事例を報告

これ
から
は

3.今後の取り組み・目指す姿

【目指す姿】

平地区に住んでいる高齢者が買い物等をはじめとする移動支援サービスを身近に利用できるような仕組みづくりを、民間で取り組んでいる既存資源を有効活用して構築することで、地域包括ケアシステムにおける「生活支援」の充実を図り、もって高齢者が尊厳を保ちながら住み慣れた地域において安心・安全な生活ができる環境を整えることを目指したい。

【今後の取り組み】

- ・ 令和4年度に引き続き、「移動支援における仕組み作り」について検討。
- ⇒ 「とくしまる」「電話宅配」など、現状の取り組みを情報共有する。
- ⇒ 市高齢者保健福祉計画に位置付けする「地域別計画」の合意形成を図る。
- ⇒ 同計画に基づきモデル地区を選定し、地区に密着したアンケートを実施。

※ モデル地区候補案

中央台地区、赤井地区、豊間地区

★令和4年度第1回会議の様子

この会議で、検討テーマを「移動支援における仕組み作り」に決定しました。

★令和4年度第2回会議（書面開催）

高齢者等の移動手段に関するアンケート調査結果（質問20問、回答数者120件）等について委員からの意見を集約しました。

★令和4年度第3回会議の様子

島田眼科医院島田院長による講演を行いました。



小名浜地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

- ①コロナの影響で「つどいの場」の数が減少。また、地域住民同士の交流減少、高齢者や障がい者のフレイルを加速させている状況にある。
- ②高齢となり車を手放してしまうと、買い物等での交通手段が絶たれてしまう状況にある。

そのため

2.これまでの主な取り組み

- ①高齢者及び障がい者並びに東日本大震災による避難者を含めた地域住民同士の交流及び相談と早期発見の窓口を兼ねたみなまるカフェの実施。
- ②買い物支援(買い物お手伝い号)の実施。
- ③小名浜地区の各団体による出前講座(学び舎-おなはま-)の実施。

3.今後の取り組み・目指す姿

- ①地域住民との「つどい」の場の深化
⇒高齢者・障がい者・東日本大震災被災者などの垣根をこえ、誰もが生活(健康や介護など)について気軽に相談でき、交流の場として利用できる地域拠点の創設。
また、みんなが「つどう」から「活躍できる」居場所づくり。
- ②買い物支援の継続実施
⇒地域で自主的に継続できるよう、第三層協議体住民支え合い事業への移行。

これからは

みなまるカフェについて

事前申し込み不要
参加費無料

第2回 みんなまるごと

みなまるカフェ

2023 3月16日(木) 10:00-13:00

会場 福島県-聖書パラダイス教会(かつ原店とびろ)
泉町7-19-1 <TEL 38-5757>

出入り自由
お好きな項目だけ参加できます

健康・介護、生活の悩みなど、たばこがある方
興味のある方
ふらふらとお茶のめしたい方
お気軽ににお立ち下さい

10:00-13:00
ハンドメイドコーナー
カフェコーナー
リリックスローナー
・マッサーシ
・映像
・BGMなど

11:00-
パン販売
・虫じのかかし
・いわき学園

11:00-
16時半
宅配弁当
試食コーナー
・まごころ弁当

12:00-12:30
講話
「奈良合生調の心が
生きている地域へ」
医療法人社 泉保善院
佐川 和彦
精神保健福祉士

12:30-13:00
ラ・エトワール
生演奏
スチールパン
ギター
パンカッション

情報ブース
物売、お茶、障がい、
開きのこと...
個別相談できます

主催 関い合お社

小名浜地域包括支援センター
泉ササギセンター
TEL 84-9460

いわき障がい者相談支援センター
小名浜地域
TEL 92-0415

第2回みなまるカフェの様子
(令和5年3月16日開催)

第2回みなまるカフェ参加者数:120人

参加者からの感想(一部抜粋)

- ・楽しいです！これからも続けてくださると嬉しいです。
- ・いろいろな事が出来て楽しかった。
- ・授産品のパンを初めて食べました。おいしくて安く、すぐに売り切れてしまった。また買いたいです。

勿来・田人地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

新型コロナウイルス感染症拡大から約3年間、行動制限などが度々繰り返され、外出自粛傾向が強まる中、「つどいの場」や「住民支えあい活動」などの地域活動への参加に関し停滞・縮小傾向が見られる。

地域全体で高齢者の活動性が低下しているものと考えられ、高齢者のフレイル(虚弱化)の進行が強く懸念され状況にある。そのため、高齢者の地域活動の参加と活性化を促すことで、フレイル予防に取り組むことが特に重要となっている。

その
ため

2.これまでの主な取り組み

新型コロナウイルス感染症の法的な位置づけが変更され活動制限等が大幅に緩和されたことを機に、「コロナフレイル」からの脱却という意識の重要性を地域の関係者間で共有するよう努めている。

これ
からは

3.今後の取り組み・目指す姿

既存の「つどいの場」や「住民支えあい活動」等の高齢者の地域活動について、「身体活動」「栄養」「人とのつながり」といったフレイル予防の視点を意識した活性化策を検討する。

また、地域における高齢者の幅広い参加と活動が促進され、効果的なフレイル予防につながるよう、新たな地域活動等のあり方についても検討していく。

植田町根小屋地区の小地域ケア会議の様子
(令和5年3月20日開催)



勿来地区の第2層協議体会議の様子
(令和4年11月15日開催)



常磐・遠野地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

- ①地域内のスーパーが閉店したことに伴い、買い物に困る高齢者が発生した。
- ②介護保険新規申請者が罹患している疾病傾向から、高血圧症、骨折・圧迫骨折、認知症に罹患している者が多い傾向にある。
- ③身寄りのない高齢者が入院した場合に、亡くなった後の支払いや、財産の処分等が課題となっている。

その
ため

2.これまでの主な取り組み

- ①当該地域のニーズ調査を実施するとともに、常磐・遠野地区にある介護保険サービス事業所等にアンケート調査を行い、協力可能かどうかを聴取した。
- ②「常磐・遠野いきいき健康塾」を開催し、介護予防の促進や要介護度の重度化防止を図っている。
- ③エンディングノートの普及・啓発に努め、地域住民やケアマネージャーに作成支援のための講話を実施している。

これ
からは

3.今後の取り組み・目指す姿

- ①今後、当該地域に対してどのような支援ができるのか、作業部会を立ち上げて考えていく。
- ②「常磐・遠野いきいき健康塾」の構成・内容をブラッシュアップさせるため、作業部会を立ち上げ、協議を進めながら実施する。
- ③今後も継続して普及・啓発に努めるとともに、課題解決のため協議を進めていく。

常磐・遠野いきいき健康塾(第4期)の様子



令和4年度第1回会議の様子



地域の高齢者30名が参加し、介護予防の促進を図りました。

内郷・好間・三和地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

高齢化が進行し、一人暮らしの高齢者や介護が必要な高齢者が増加する中、中山間地域でも、福祉サービスのニーズがあるものの、それぞれの対象者数が少なく、十分なサービスの提供がなされていないことから、必要に応じた福祉サービスの利用ができる体制づくりが課題となっている。

なお、平成29年度中地域ケア会議において実施した中山間地域における「生活状況・生活の困りごとに関するアンケート調査」結果では、三和地区での「介護予防」の取り組みの普及、推進が優先課題となっていることから、フレイル予防に向けた取り組みを行うこととした。

その
た
め

2.これまでの主な取り組み

第1回中地域ケア会議(R4.7/7)

- ・介護予防に関する取り組み状況報告
- ・今後取り組む事項について検討

第2回中地域ケア会議(R5.2/16)

- ・フレイル予防プログラム、測定項目について検討

第1回合戸フレイル予防チャレンジ

(R5.3/14)

- ・フレイル予防に関する講話
- ・骨密度、握力、足指等各測定の実施

第2回合戸フレイル予防チャレンジ

(R5.4/18)

- ・運動、栄養、口腔に関する講話、フレイル予防のメニュー紹介

こ
れ
か
ら
は

3.今後の取り組み・目指す姿

全4回の開催を予定しているフレイル予防チャレンジにて、専門職による講話やホームワークの紹介等を通して、フレイル予防に関する意識付けを行うとともに、測定値の推移分析等を行い、独自のフレイル予防のメニュー作成を行う。

また、三和地区だけではなく、他地区へも取り組みを広め、地域全体の活性化を図るとともに、誰もが健康で安心して生活ができるまちづくりを目指す。

第1回合戸フレイル予防チャレンジ(令和5年3月14日開催)



フレイル予防に関する説明



骨密度、足指、握力等各測定



参加人数 20名

フレイル予防について説明後に、各測定を実施しました。足指測定等慣れない測定方法も多く、苦勞されていましたが、フレイル予防について考えていただく機会となりました。

第2回合戸フレイル予防チャレンジ(令和5年4月18日開催)



栄養に関する講話



運動に関する講話



自宅でできる運動の紹介

参加人数 11名

運動、栄養、口腔に関する講話を行い、1日の食事内容を記録する、活動の合間に軽い運動を取り入れる等、普段の生活に取り入れることができそうなメニューの紹介を行いました。

四倉・久之浜大久地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

・リーダーが高齢化しており、今後を担う人材の確保が必要

・高齢者が多い一方で公共交通機関が整っておらず、地域内での移動手段が乏しいためその対策を検討していくことが必要

・同居家族がいる世帯でも日中独居となるケースも多く、支援の必要性について実態把握が難しい為、複数の関係機関で情報を共有し対応する必要がある。

そのため

2.これまでの主な取り組み

・7期目となる「いわき医療介護学校よつくら塾」の開催

・「つどいの場」が新たに立ち上げられた。

・認知症の人と家族の一体的支援プログラムの取組みとして、ミーティングセンター「寄るべ」を立ち上げ、毎月交流会を開催している。

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

・よつくら塾の開催により、地域の人材育成・活動支援を図る。

・運動のみならず栄養、口腔ケア、生きがいづくりなどの正しい知識の普及を図ることで、地域住民の介護予防への意識づけを行い健康寿命を延伸する。

・配達や移動販売、飲食店の出前や仕出し業者など食に関する資源を発掘する。

第1回よつら塾の様子 (令和5年5月25日開催)



大久筒木原地区地域ケア会議の様子 (令和5年6月13日開催)



マップ作製(地域の情報共有と課題抽出)

四倉・久之浜・大久地区 ミーティングセンター『寄るべ』

2023年5月 VOL.1



5月号

5月18日(木) 開催

【内容】

- 自己紹介
- 話し合い
 - ・会の名前
 - ・悩みごと

来月の予定

日時：

6月15日(木)

13時30分から15時

場所：海嶽寺

5月のミーティング

～本日は夏のような暑い日の集まり～

四倉・久之浜・大久地区で初“一体的支援プログラム”という、もの忘れへ不安を感じている方、悩みを抱えている方、その家族の第2回目の集まりを開催しました。

会を始める前に参加者が持参したレコードで懐かしいヒット曲を聴きました。そして、参加者でアイデアを出し合い、会の名前が決定！心の拠り所となるよう、近くまで来て寄っていくことができるように願いを込めて、「ミーティングセンター『寄るべ』」となりました。6月も交流を深めて、やりたいことなど話し合っていくことができればと思います。

お問い合わせ先

四倉・久之浜大久地域包括支援センター

☎ 32-2115 FAX 32-2258

✉ yotukura-houkatu@bz03.plala.or.jp



小川・川前地区中地域ケア会議の取り組み

1.地区の背景・抱える課題

【小川地区】

これまでのバス路線の廃止や減便、免許返納等により、移動手段がない高齢者等がみられる。水害やコロナの影響により活動が制限され閉じこもりがちになり、コミュニティの維持が難しい状況も見られた。また、元気な高齢者が活躍できる場所が少ない。

【川前地区】

急速な人口減少と高齢化が進行。地区内に病院、スーパーがなく、移動手段もないため、通院や買い物が困難な高齢者が多い。介護保険や障害福祉サービスを提供する事業所が少なく、希望するサービスが利用できないという課題がある。

そのため

2.これまでの主な取り組み

【小川地区】

- (1)認知症に関する啓発（認知症カフェの開催）
- (2)元気シニアの活躍の場づくり
- (3)住民主体の活動支援と普及啓発（「つどいの場」活動支援等）
- (4)多職種連携強化推進の取り組み

【川前地区】

- (1)医療と介護サービスの充実（周辺地域との連携強化）
- (2)見守りと生活支援の充実（既存サービスの利用促進と新たな社会資源の創出活用）
- (3)住民主体の活動支援と普及啓発

これからは

3.今後の取り組み・目指す姿

【小川地区】

- ・小川寺子屋のプログラムや開催のあり方を検討し、元気シニアの活動の場づくりを推進
- ・引き続き「つどいの場」や「住民支え合い活動」等の住民主体の活動を支援し、地域共生社会の実現を推進
- ・ウイズコロナの視点で事業や活動を継続していくための実施方法やあり方の検討

【川前地区】

福祉の拠点となるNPO法人「小さな拠点おおか」を中心とした地域づくりにより、「買い物」「移動」の支援が順次開始予定。関係機関との連携を継続し、将来も安心して暮らし続けることができる川前町の実現に向けて取り組む。

「つどいの場」の様子



趣味活動(芸能) 参加人数10人



応急救命教室 参加人数8人

川前地区 小さな拠点おおか（令和5年度地域共生社会まちづくり事業補助金採択事業）

《つながる・あつまる・コミュカフェおおか》

地域資源を活用した料理等の提供を行うことを通じて、誰もが集える地域の居場所づくりとコミュニティの活性化をはかるため、コミュカフェの開設を行うため古民家(台所部分)の一部改修を行うとともに、必要な設備等を整備する。

(1) 古民家台所の改修・整備

① 台所床工事

（基礎補強含めた床の張り替え）

② 電気・給排水設備工事

③ 家具家電の購入



小さな拠点おおか(下桶売)

(2) 地域の「たまり場」を作る

開所時には“誰かが居る”地域の「たまり場」に。茶話会や交流イベント、認知症カフェなどを開催。地域住民の健康増進やフレイル予防を推進する。

5/23「みんなであつまっ会」の様子



各部会の取組み

医療と介護連携促進部会

令和4年度「医療と介護連携促進部会」において、高齢者のライフサイクルを意識して、医療と介護が主に共通する4つの場面（日常の療養支援、入退院支援、急変時の対応、看取り）における「医療と介護連携の目指す姿・評価指標・課題」について協議した。

【令和4年度 決定項目】



	入退院支援	日常の療養支援	急変時の対応	看取り
医療と介護連携の目指す姿	いわき医療圏退院調整ルールを運用し、病院とケアマネージャーが在宅復帰に向け入院当初から情報を共有し、安心してご本人が在宅（施設等）へ移行できるよう支援する。	医療・介護に関わる多職種がお互いの職種の役割を理解し、ICT等効率的効果的な手段等も活用しながら連携を図り、本人の意向と状態に応じた医療・介護支援を提供することが出来る。 ※災害時等の対応（特に医療機器使用者等）については、本人・家族・多職種間で共有し、本人の安全確保を図る。	在宅療養中に体調が急変することも想定し、かかりつけ医師・本人・家族・支援にあたる多職種等で連絡体制を共有し、慌てずに適切な方法で医療を受けることができる。	人生の最終段階における医療、療養場所（病院・自宅・施設）について、医療・介護関係者が本人・家族の意向を尊重し、それが実現できるように支援する。

令和5年度医療と介護促進部会スケジュール

	入退院支援	日常の療養支援	急変時の対応	看取り
第1回 (8月25日)	<ul style="list-style-type: none">• 評価指標、課題優先順位付け• 課題を生じさせている要因(真因)を分析			
第2回 (R6.1月頃)	<ul style="list-style-type: none">• 効果的な対応策(事業等:医療・介護職関係機関、行政等の役割)を協議			

在宅医療推進のための多職種研修会

テーマ:「より良く生きる」を支援する人生会議



	第1回	第2回
日時	7月15日(土) 午後2時～4時	11月11日(土)午後2時～4時
開催方法	中央台公民館(集合)及びZOOMウェビナー併用	
対象者	①医療・介護関係団体所属会員②関係団体に所属されていない医療・介護従事者	
内容	講義:「終末期の意思決定とACPの実際」 演習:【事例】肺の病気で療養されている方	講義:「終末期の意思決定とACPの実際」 演習:【事例】がんで療養されている方
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> ACP(愛称人生会議):人生の最終段階の治療・療養について、本人・家族と医療従事者等が話合うこと。 </div>	

いごくミーティング2023～ジンセイカイギ～ 9/16(土)開催決定！

概要

多死社会に向けた複合的な課題にどう向き合うか、一人ひとりが高齢期の過ごし方や終末期の選択について【我が事】として向き合うイベントとして、9/16(土)いわきアリオスにて開催。

内容

【テーマ】アドバンス・ケア・プランニング(ACP)＝「人生会議」

本人や家族、医療・ケアチームと一緒に話し合いを重ね、本人や家族の想い、希望を明らかにして最善のサポートをするために必要となるプロセスについて考える。

- (1) 映画「痛くない死に方」上映会・原作者トークショー ※要予約 ◆時間 13:00～17:00
- (2) 人生会議啓発「どせばいい?カード」体験会 ※要予約 協力:社会福祉法人中央福祉会(青森市)
◆時間 10:00～16:30 予約可能回10:00～ 11:30～ 15:00～ 各回8人
- (3) 認知症啓発パネル展示&認知症カードゲーム ◆時間 11:30～16:30
- (4) わたしノートを書いてみよう ◆時間 10:00～17:00
- (5) おやこでハッピーワークショップ 協力:スイミーの会
◆時間 10:30～16:45 ◆託児有り(2歳～小学2年生;10名)



高齢者生活安全部会

「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会」の実現を目指し、「認知症に対する正しい知識と理解の促進」「早期発見、早期対応ができるシステムの確立」「認知症の方や家族、介護者の支援」を基本とした取組みを推進するための協議を行う。

令和4年度（協議事項）

【第1回】6月15日開催

- 認知症施策推進大綱を踏まえた今後の取組み
- 新たな取組みの進捗報告
 - ・ミーティングセンター「よもの会」
 - ・ものわすれ相談会

【第2回】9月21日開催

- 認知症初期集中支援チームの活動状況について
- ものわすれ相談会について
- チームオレンジの取組みについて

【第3回】12月14日開催

- 認知症初期集中支援チームの活動状況について
- 認知症地域支援推進員について
 - ・推進員の役割及び活動内容紹介

令和5年度（予定）

【第1回】7月19日開催

- 令和4年度活動実績と今年度の取組みについて
- 認知症サポーターの活動促進について

【第2回】12月頃

- 認知症初期集中支援チームの活動状況について
- 認知症サポーター活動促進事業の進捗について

認知症サポーターの活動促進について

認知症の人ができる限り地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症の人やその家族の支援ニーズと認知症サポーターを中心とした支援をつなぐ仕組み「チームオレンジ」を構築し、認知症サポーターのさらなる活躍の場を整備する。

【現状】 サポーター養成状況 延べ27,209人(平成18年度～令和4年度)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
養成人数(人)	908	704	923
(企業)	(139)	(45)	(100)
(教育機関)	(537)	(345)	(423)

●地域での具体的な活動をするための働きかけや機会の提供が十分でない。

【方針】

認知症サポーター養成講座を修了した方が復習も兼ねて学習する機会を設け、座学だけでなくサポーター同士の討議・演習も含めた、より実際の活動につなげるための講座(ステップアップ講座)を平地区をモデルに開催する。

認知症サポーターの活動促進について

認知症があっても自分らしく安心して暮らし続けていくために、地域のあらゆる障壁(バリア)を減らしていく「認知症バリアフリー」のまちを、認知症の本人と共に創り、共に生きる社会を目指す。

買い物編

＼本人の声からバリアを発見！／

ミーティングセンター “よもの会”

認知症当事者や家族が集まり、日々の想いや暮らしやすい地域のあり方など語り合う場



《本人の声》

- ・商品を選ぶのが難しい
- ・会計に時間がかかり周囲の目が気になる
- ・新しい機械を覚えるのは難しい
- ・店内で迷ってしまう

＼認知症サポータの養成+活動の促進／

ボランティアチーム結成 (チームオレンジ)

認知症の方や家族のお困りごとのサポートや希望を実現するためのパートナーボランティアを養成し、ともに活動するチームをつくる

- ステップアップ講座(ボランティア実践講座)の開催(R5.8予定)
→ ボランティア希望者や協力機関で
チームを結成

平地区をモデルに活動展開

- 活動拠点: マルトSC城東店イートインスペース
- 活動内容: 買い物支援、サロン運営 など
- 活動を検証しながら、バリアフリーの取組を地域に普及していく

＼認知症になっても暮らしやすい生活環境づくり／

認知症の方が買い物しやすい
環境づくり(スローショッピング)

- お買い物サポーターの配置
住民ボランティア(認知症サポーター)が
買い物をお手伝い
- サロンの設置
イートインスペースを”サロン”として活用
交流・啓発・相談の場として機能
- その他、認知症の方にやさしい取組を展開
商品の配置や表示の工夫など

健康と生きがいづくり部会

健康寿命の延伸に向けた高齢者の介護予防事業への参加拡大策の検討、実効性のある事業内容の検討及び住民主体の介護予防活動の推進により、機能回復訓練に偏らない、高齢者の社会参加や生きがい・役割の創出による心身の健康増進を図る。

令和4年度（協議事項）

介護予防・日常生活支援総合事業に関するサービスの充実化に向けた検討を行った。

第1回 6月21日（火）オンライン開催
（協議事項）

- 生活援助サービスについて
 - ・利用者拡大に向けた手法について
- 訪問型短期集中予防サービスについて
 - ・複合型プログラムの実施について

（その他）

- 「いわき市介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイスまとめ集」の作成

令和5年度（予定）

（開催時期）

第1回 9月頃 第2回 12月頃 第3回 3月頃

（協議事項）

- 介護予防ケアマネジメント支援会議について
 - ・会議を通じて得た地域課題と対応策の検討
- 通所型短期集中予防サービスの実施方法について
- 地域リハビリテーション活動支援事業の実施状況について

いわき市介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイスまとめ集の作成

各専門職団体の協力のもと、これまでの介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイス内容や提供資料から、各項目におけるアセスメントのポイントや、より質の高いきめ細やかなサービス提供に繋がる助言を取りまとめた助言集を令和5年2月に作成。

いわき市
介護予防ケアマネジメント支援会議
におけるアドバイスまとめ集



令和5年2月

目次

はじめに ～助言集作成の趣旨～

第1章 運動機能	
1 運動機能アセスメント	2
2 ADL・IADLのアセスメント	13
3 基本的な機能訓練の考え方	19
4 体力評価の実施方法	30
5 興味・関心チェックシートの活用	37
第2章 口腔機能	
1 口腔機能向上の意義	39
2 口腔機能アセスメント	44
3 口腔機能向上の方向性	56
4 口腔ケアの方法	57
5 食事前の確認事項	60
6 口腔周囲筋や舌筋の強化	62
7 服薬と口腔の関係	65
第3章 栄養	
1 高齢者にとっての食べることの意義	72
2 アセスメントにおいて留意する点	74
3 栄養スクリーニング、アセスメントの実施	76
4 栄養改善の方向性	87
5 栄養は足りていますか？	88
6 高齢者の低栄養対策のための食生活	89
第4章 難聴	
1 加齢性難聴に関する支援Q&A	98
資料1 難聴障害度質問票	106
資料2 ありがたい配慮について	107
資料3 補聴器相談医とは	108
資料4 認定補聴器技能者とは	109

(掲載内容)

- ・運動機能
 - ・口腔機能
 - ・栄養
 - ・難聴
 - ・服薬
 - ・介護予防ケアマネジメント
- 計142ページ

地域リハビリテーション活動支援事業

【基礎講座】

市内通所介護事業所等においては、専門職の確保が困難な状況であり、身体状況に加えて口腔、栄養に関する包括的なアセスメントや支援が十分にできない状況が見受けられる。

これにより、利用者の機能回復や維持に向けた効果的な支援ができず、自立支援・重度化防止の支障になっていることから、介護職員等のアセスメント力の向上を目的に、専門職から「いわき市介護予防ケアマネジメント支援会議におけるアドバイスまとめ集」を基に、アセスメントの視点や機能訓練などの知識に関する助言を以下の日程で講座形式にて実施。

	第1回	第2回	第3回
日時	5月19日(金) 15:00~16:30	5月25日(木) 15:00~16:30	6月7日(水) 15:00~16:30
開催方法	ZOOMウェビナー		
対象者	居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、通所介護事業所、通所リハビリテーション(デイケア)事業所		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○身体状況のアセスメントの視点と方法(理学療法士) ○ADL・目標設定について(作業療法士) 	<ul style="list-style-type: none"> ○口腔に関するアセスメントについて(歯科衛生士) ○嚥下に関するアセスメントについて(言語聴覚士) 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養に関するアセスメントについて(管理栄養士) ○高齢者にありがちな服薬トラブルの知識(薬剤師)

【個別指導】

介護事業所と専門職のネットワークが弱いことや、小規模事業所が多く、介護職員が専門職から技術的な知識を習得する機会や相談先が少ない状況にあることから、職種ごとに指導メニューを用意し、専門職が直接事業所を訪問して現場で抱える悩みや個別具体のケースに対し、助言を行うことによって介護事業所のスキルアップやネットワーク構築を図り、効果的な支援の実現に繋げることを目的として実施。

○利用フロー



○派遣職種及び指導メニュー

派遣職種	指導メニュー
理学療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所スタッフへ訓練プログラムの提案、アドバイス ・ 歩行動作を確認、補助具(杖・歩行器・装具等)の検討や介助方法の指導 ・ 施設内環境整備に対するアドバイス ・ 集団体操内容確認、アドバイス ・ 個別機能訓練計画書やLIFE導入へのアドバイス 等
作業療法士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症や高次脳機能障害の方に対するプログラムへのアドバイス ・ 生活行為の獲得に向けた考え方やプログラムへのアドバイス ・ 利用者に適した福祉用具や自助具の提案・アドバイス ・ 利用者の目標設定についてのアドバイス 等
言語聴覚士	<ul style="list-style-type: none"> ・ 嚥下機能低下に関する相談事のアドバイス ・ 失語症や構音障害、加齢性難聴などコミュニケーションに関する相談事のアドバイス ・ 口腔機能向上加算に関わる相談事のアドバイス 等

本事業の積極的な周知・活用につきまして、皆様のご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします!!

情報共有